

	神戸大学 保健系分野（看護学・医療技術学、学際・特定）
学部・研究科名	<p>医学部保健学科</p> <p>看護学専攻（第1年次：80名、第3年次：10名）</p> <p>検査技術科学専攻（第1年次：40名）</p> <p>理学療法学専攻（第1年次：20名）</p> <p>作業療法学専攻（第1年次：20名）</p> <p>保健学研究科保健学専攻（M：56名、D：25名）</p>
沿革・設置目的	<p>兵庫県立神戸病院看護婦養成所等を経て神戸大学医療技術短期大学部が設置された後、平成6年、看護学、検査技術科学、理学療法学及び作業療法学に関する教育・研究を行うことを目的とした医学部保健学科として設置された。</p> <p>昭和24年（1949年） 神戸大学設置</p> <p>昭和42年（1967年） 国立移管に伴い医学部附属看護学校設置</p> <p>昭和44年（1969年） 医学部附属衛生検査技師学校設置（昭和47年（1972年）医学部附属臨床検査技師学校に改組）</p> <p>昭和56年（1981年） 医療技術短期大学部設置</p> <p>平成6年（1994年） <u>医学部保健学科設置</u></p> <p>平成11年（1999年） 大学院医学系研究科保健学専攻（修士課程）設置（平成13年に博士課程を設置）</p> <p>平成16年（2004年） 国立大学法人に移行</p> <p>平成20年（2008年） 大学院医学系研究科を改組し、大学院保健学研究科保健学専攻設置</p>
強みや特色などの役割	<p>○ 神戸大学の理念等に基づき、世界に開かれた国際都市神戸に立地する国立大学として、それぞれの専門性を発揮する能力を基盤とし、旺盛な探究心と創造力を有し、多職種と協働しながらグローバルな視点で国内のみならず国際社会で活躍できる保健医療専門職（看護学系・医療技術系）を育成する。また、附属病院等の臨床施設と連携し、双方向型教育プログラムの開発や教員指導者育成を推進する。</p> <p>○ 大学院において高度専門人材及び研究者を育成する。特に、ASEAN諸国の大学との連携をはじめとする国際的な大学連携を活かして次世代の保健学のグローバルリーダー育成を目指す。</p>

- 災害保健、アジアにおける少子高齢化社会の出現など、現在及び将来の国際的な課題に対し、在宅高齢者・障害者の保健医療に関する研究を、国際保健機関（WHO等）との連携や海外拠点を活用して積極的に展開する。